

子どもと家族と学校と

⑩

『私がこんな性格になったのは、母の育て方が悪かったからだ！』

CON カウンセリングオフィス中島

中島 弘美

カウンセリングをしている過程で、クライアントさんが変わってきたなあと明確に感じることもある。

それと同じように、大学で講義をしていて、学生さんたちの理解が進んでいき、よくわかっている、ちゃんと伝わっていると思えてうれしくなることがある。

それは、ともにある事象に対する受けとめ方が変わり、柔軟になっていくからだ。凝り固まってしまった考えから解放されて柔らかくなる。

お母さんの育て方が悪い

「こんな性格になったのは、お母さんの育て方が悪かったから、だから私はおとなしくなってしまった、上手に育ててくれていたらもっと明るくて活発な性格になっていたのに」

彼女は大学に通う学生さん。

自分の性格が好きではない。おとなしくて、どちらかというと暗くて、人から好かれない、いわゆる内向的な性格だと思っている。お母さんがもっと上手に私を育ててくれていたら、こんなことには

ならなかったのにと母親批判を繰り返していた。

たとえば、大学に入ることができたのはお母さんが上手に育ててくれたおかげなどと、スムーズにいったことについては、お母さんの影響だとは考えない。うまくいかないことに関しては決まって、お母さんが悪いということになっている。

思い通りにならない状況に向き合わなければならないとき、多くの人が同じような考え方になる。何が原因か、誰が悪いのかを追求して、その原因らしき要因がひとつ浮かび上がると、まさにそれが悪の根源であると集中砲火を浴びせて、おとなしい性格になったのはお母さんのせいという考え方が固まっていく。

ところがこの学生さんに少しずつ変化が起きる。

お母さんは、お母さんなりにいろいろと考えて、私を育てるために精一杯やってくれたのではないかと思えるようになった。

習い事もいろいろ行かせてもらったし、洋服も何かとおしゃれをさせてくれた。

勉強しなさいと、そんなに口やかまし

くいわれた覚えはないし、どちらかという
と黙って見守ってくれた気もする。

このように、考え方受けとめ方が変わ
ってきた。

お父さんイヤ

もうひとり別の学生さんの場合。

実は、お父さんとうまくいっていない。
お父さんのことが嫌で仕方がないという。
家族に迷惑ばかりをかけている父が好き
になれない。

仕事から帰って、家にいるときは、い
つもお酒を飲んでいる。飲み過ぎが原因
でからだを壊して入院をした。回復する
と、また家でお酒を飲んで、再び病院に
入院する。からだのことや家族のことを
考えずにずっと家でお酒ばかり飲んでい
る。母がお酒を飲まないように父にいつ
も言うことをきかないままだった。

その姿をみているので、父親に対する
印象は良くない。父と顔を合わせると、
無視するし、話かけることもほとんどな
く、父親否定を続けていた。

高校生のとき、進路のことでどうして
も父と話しあわないといけなかったこと
があった。父が、大学進学を応援してく
れるのはよくわかったが、その話し合い
のときですら、お酒を飲んでいたので。父
は最低だ！と思った。

寂しいのかもしれない

あとでわかったこと、父はお酒を飲ま
ないと、人と話しあえないような気の弱
さがあると母が説明してくれた。わが子
と話すのもアルコールなしでまじめな話

をすることができない状態にあった。

大学に入ってから、いろいろなことを
学んでいくうちに、少しずつ父に対する
受け止め方がかわってきたことに気がつ
いた。

たとえば、居間にいて母とふたりで話
をしているところへ父がふらっと姿を現
すと、ふたりとも急に話をやめてしまう。
とく父に聞かれない話題ではないが、
楽しそうに話している姿を見られたく
ない思いからついつい無視してしまうこ
とも多い。

このような環境にある家で暮らしてい
ると、もしかしたら、お父さんは寂しい
のかもしれない、、、。

父のすべてを理解することはできない
けれど、ちょっとかわいそうな気がして
きた。

大学生になると、これまで抱いていた
親像と異なって見えてくる。親の態度が
大きく変わるということではなくて、親
の行動に対しての子どもの理解が変わる。

姉妹のように仲良しの母娘、なんでも
おしゃべりする親子もいるが、中学校
では、友人とのつながりが強くなる一方
で、親に対しては、反抗的な態度を取
っていることも多い時期だ。

高校を卒業すると受験のストレスもな
くなって、新しい生活が始まり、自由
に行動できる範囲が広がる。

するとそのゆとりも手伝って、親の立
場からものごとを考えられるようになって
いく。さらに、親を一人の人間とみる
ようにもなってくる。

このころ、お父さんやお母さんから、
おじやおふくろという呼び方にかわ
っていく青年もいる。

あるいは、アルバイトを経験することによって、毎日親が働いている大変さを痛感し、そのことから歩み寄れる場合もあるだろう。

これまでさんざん親に対して批判を繰り返してきた学生さんの受けとめ方が少しずつ変わったのは、個人の成長と言えるだろう。そして、対人支援の講義の中で、学んだことが自らの立場をふりかえるきっかけになり、受けとめ方が変わっていくこともある。

人は最善の選択をして行動

講義の中で、対人援助を必要としている人を理解するとき
～人はその場その場で、最も有益だと思ったことを選択して、行動しているという前提で人と接する～

あとから、ふりかえてみて、あの行動は正しくなかったとか、もっとこうしたら良かったと判断することがあるかもしれないけれど、そのとき、その場では、その人は、そうするのが一番良いと思ってやったことであるとその人の選択を尊重した態度で接する。

そのように、講義において力説している。講師の私の気持ちとしては、対人支援の現場にいるとき、支援を必要としている人には、いろいろな人がいて批判したい気持ちになるかもしれないけれど、人のことを簡単に責めないでよ、という願いがあるからだ。

クライアントさんを理解することを通して、自らの立場や家族のことをふと思うと、受けとめ方が大きく変わってゆくのにつながっていったようだ。

親に対してだけでなく、きょうだいについても同じような感想があった。

詳細を記すことはできないが、ポイントはこうだ。

姉はキツイ

年齢が三歳離れている姉妹の妹は、いつも姉のことをうっとうしいと思い、ケンカを繰り返していた。

姉が断りもなく、妹の持ち物をさわったり、洋服を着ていたりすることで衝突を繰り返していた。

姉は感情的な表現を多く使って話をし、言い合いになり、妹はあまりにも姉の言い方が激しいので言い返すことができず、黙ってしまう。黙ってしまう妹をみて、姉がイライラしてまたキツイ言い方をしてしまう。その繰り返しになっていることがわかった。

妹としては、姉がキツイ言い方をするので悲しく感じて、その言い方はやめてほしいと思っていた。姉は姉で、感情を込めて話さなければ人には自分の思いが伝わらないと考えて、結果的に激しい表現やキツイ言い方になっていた。

一生懸命に話をしているのに、妹は黙るので、その態度にイラついて、妹のことをぼろくそに攻撃していた。

姉に言いたいこと言ってみよう

そんなときに、講義で人はその場その場で一番有益だと思うことを選んで行動をしているということを学んだあとは、いままでとはことなった受けとめ方ができるようになったという。

あのキツイ言い方でもお姉ちゃんなりに考えた態度。お姉ちゃんに、もうちょっと自分の言いたいことをいっても良いのかもしれないと思うようになり、つねに姉批判で終わるのではなく、自分でやれることをやってみようと思えるようになったという。

他者批判を繰り返すのではなく、何をしはじめたら良いのかそのポイントが見えるととても動きやすくなる。

家族の変化

相談に来られているクライアントさんやご家族は、柔軟な受けとめ方をすることができるようになり、かつ次の行動を起こすことができるためには、時間が必要だ。

家族が困った状況から解決に至るまでによく見られるプロセスがある。

それはまず、困った状況の渦中にある場合たとえば、子どもが不登校になり欠席が長く続くと、私の育て方が悪かったら、子どもがこうなってしまったのではないかと、しきりに過去のことを思い出し反省を繰り返すお母さんがいる。

また、お父さんは仕事で忙しいからお母さんにまかせっきりになってしまった、それが良くなかった。

おじいちゃんやおばあちゃんたちは、孫を甘やかせすぎたと反省する。もっとガツンといわないからこそ、子どもが凶に乗ってしまった。好きなものをどんどん与えてガマンさせることをしてこなかったから、このようになった。

それぞれが過去に思い当たることを掘り起こして、何が良くなかったかのオン

パレード。

そして、学校の担任がもっと的確に動いてくればこんな事態にはならなかった、クラス担任の配慮が足りないなどと、攻撃対象が学校になったりする。

そのように、これまでのことを見つめなおしていくと、少しずつ全体像が把握でき整理される。そのまとめができると、さあ次のステップ。

これからどんなことができますか？
と考えていく。

少なくともこれまでと同じように続けていくのが良いと思うことはどんなことですか？

あるいは新しく始めると良いと思うことはどんなことですか？

と、過去ではなく今後に焦点を当てて、話し合いができる状態になっていく。

これらについて考えていくことができる状況になると、家族が能動的になり、少しずつ変化がやってくる。